のごとしエサウの冢子エリパズの子にいテマン侯オマル侯ゼポ侯ケナズ侯　コラ侯ガタム侯アマレク侯
是等ハエリパズよりいでたる侯ゐしてエドムの地ゐありき是等ハアダの子なり　エサウの子リウエルの
子ハ左のおとしナハテ侯ゼラ侯シヤンマ侯ミザ侯是等ハリウエルよりいでたる侯にしてエドムの地にゐ
りき是等ハエサウの妻バスマテれ子なり　エサウの妻アホリバマの子ハ左のおとしエウシ侯ヤラム侯コ
ラ侯是等ハアナの女にしてエサウれ妻なるアホリバマよりいでたる侯なり　是等ハエサウすゐハちエド
ムの子孫にしてろの侯たる者なり　素より此地ゐ住しホリ人セイルの子ハ左れおとしロタンショバルヂ
ベオンアナ　デションエゼルデシヤン是等ハセイルの子ホリ人の中れ侯にしてエドムの地にあり　ロタ
ンの子ハホリヘマムありロタンの妹ハテムナ　ショバルの子ハ左のごとしアルワンマナハテニバルシボ
オナム　ヂベオンの子ハ左のおとし卽ちアヤとアナ此アナろの父ヂベオンの驢馬を牧をりし時曠野ゐて
温泉を發見り　アナの子ハ左のごとしデションおよびアホリバマヲホリバマハアナの女なり　デション
の子ハ左れごとしヘムダンエシバンイラランケラン　エゼルれ子ハ左のごとしビルハンザワンヤカン
デシヤンの子ハ左れごとしウヅアラン　ホリ人の侯たる者ハ左れごとしロタン侯ショバル侯ヂベオン侯
アナ侯　デション侯ニゼル侯デシヤン侯是等ハホリ人の侯ゐしてろの所領ゐまたがひてセイルれ地ゐあ
りイスラエルの子孫を治むる王いまだゐらざる前にエドムの地を治めたる王ハ左のごとし　ベオルの
子ベラエドムに王たりろれ都の名ハデナバといふ　ベラ薨てボツラのゼラの子ヨバブ之にかわりて王と
なる　ヨバブ薨てテマン人の地のホシヤムこれゐかわりて王となる　ホシヤム薨てベダデの子ハダデこ
れに代て王となる彼モアブの野ゐてミデアン人を擊しことあり其邑の名ハアビテといふ　ハダデ薨てマ

ヲ創十四〇六　申二〇十二、廿二
ワ代上一〇卅八
カ利十九〇十九
ヨ代上一〇四三

スレカのサムラこれゐかハりて王となる　サムラ薨て河の旁ゐるレホボテのサウル之ゐかわりて王とな
る　サウル薨てアクボルの子バアルハナンこれゐ代りて王となる　アクボルの子バアルハナン薨てハダ
ル之ゐかわりて王となる其都の名ハパウといふろの妻の名ハメヘタベルといひてマテレデの女なりマテ
レデハメザハブの女なり　エサウよりいでたる侯の名ハろの宗族と居處と名ゐ循ひていへば左のごとし
テムナ侯アルワ侯エテヽ侯　アホリバマ侯エラ侯ピノン侯　ケナズ侯テマン侯ミブザル侯　マグデエル
侯イラム侯是等ハエドムの侯ゐして其領地の居處ゐよりて言る者ゐりエドミ人の先祖ハエサウ是ゐり

第三十七章

一　ヤコブハカナンの地ゐ住り卽ちろの父ゐ寄寓し地なり　ヤコブの傳ハ左のごとしヨセ
フ十七歳ゐしてろの兄弟と偕ゐ羊を牧ふヨセフハ童子ゐしてろの父の妻ビルハの子ゐよびジルパの子と
侶たりしが彼等の惡き事を父ゐつぐ　ヨセフハ老年子なるが故ゐイスラエルろの諸の兄弟よりも深くて
れを愛しこれがためゐ綵る衣を製れり　ろの兄弟等父がろの諸の兄弟よりも深く彼を愛するを見て彼を
惡み穩和ゐ彼ゐものいふことを得せざりき　茲ゐヨセフ夢をみてろの兄弟ゐ告けれ心彼等愈てれを惡め
り　ヨセフ彼等ゐいひけるハ請ふわが夢たる此夢を聽け　我儕田の中ゐ禾束をむすび居たるゐわが禾束
をき且立り而して汝等の禾束環りたちてわが禾束を拜せり　ろの兄弟等之にいひけるハ汝眞にわれら
の君となるや眞に我等をふさむるにいたるやとろの夢とろの言のために益てれを惡めり　ヨセフ又一の
夢をみて之をろの兄弟に述ていひけるは我また夢をみたるに日と月と十一の星われを拜せりと　則ちこ
れをろの父と兄弟ゐ述ければ父のれを戒めて彼にいふ汝が夢しこの夢ハ何ぞや我と汝の母となんぢの兄
弟と實にゆきて地に鞠て汝を拜するにいたらんやと　斯しろのばろの兄弟かれを嫉めり然どろの父はこの

ヘ創四六〇二九
ト創廿七〇二九
チ徒七〇九
リ但七〇二八　路二〇十九、五一
タ代上一〇五十、廿十五〇十五
レ代上一〇五十一
ロ母上三〇廿二、廿三〇二四
ハ創四四〇廿
イ創十七〇八、廿三〇四、廿八〇四、廿六〇七　來十一〇九
甲土五〇卅、母下十三〇十八
ニ創廿七〇四一、四九〇廿三
ホ創四二〇六九、四三〇二六、四四〇十四

言をおぼえたり　十二 茲にろの兄弟等シケムにゆきて父の羊を牧ねたりしかば　十三 イスラエルヨセフにいひけるは汝の兄弟ハシケムにて羊を牧るにあらずや來れ汝を彼等につかはさんヨセフ父にいふ我て〻にあり　十四 父われにいひけるハ請ふ往て汝の兄弟と群の恙なきや否を見てかへりて我につげよと彼をヘブロンの谷より遣はしければ遂にシケムに至る　十五 或人かれに遇ふに彼野にさまよひをりしかば其人われに問て汝何をたづぬるやといひければ　十六 彼いふ我ハわが兄弟等をたづぬ請ふかれらが羊をかひる所をわれに告よ　十七 ろの人いひけるハ彼等ハ此をされり我かれらがドタンにゆくといふを聞たりと是に於てヨセフろの兄弟の後をおひゆきドタンにて之に遇ふ　十八 ヨセフの彼等に近のざる前に彼ら之を遙に見てこれを殺さんと謀り　十九 互にいひけるは視よ作夢者きたる　二十 去來彼をころして阱に投いれ或惡き獸これを食たりと言ん而して彼の夢の如何になるかを觀るべし　二十一 ルベン聞てヨセフを彼等の手より拯ひいださんとして言けるは我儕てをを殺すべからず　二十二 ルベンまた彼らにいひけるハ血をながすなかれ之を曠野の此阱に投いれて手をこれにつくるなかれと是ハ之を彼等の手よりすくひいだして父に歸んとてなりき　二十三 茲にヨセフ兄弟の許ハ到りければ彼等ヨセフの衣即ちろの着たる綵る衣を褫ぎ　二十四 彼を執て阱ハ投いれたり阱ハ空ハしてろの中ハ水あらざりき　二十五 斯して彼等坐てパンを食ひ目をあげて見しハ一群のイシマエル人駱駝ハ香物と乳香と沒藥をおいせてエジプトハくだりゆかんとてギレアデより來る　二十六 ユダろの兄弟ハいひけるハ我儕弟をころしてろの血を匿すも何の益かあらん　二十七 去來彼をイシマエル人ハ賣ん彼ハ我儕の兄弟われらの肉なればわれらの手をかれハつくべからずと兄弟等これを善とす　二十八 時ハミデアンの商旅經過けれどヨセフを阱よりひきあげ銀二十枚ハてヨセフをイシマエル人ハ賣り彼等すなはちヨセフをエジプトハたづ

ヌ 創三五〇二七
ル 歌一〇七
チ 王下六〇十三
リ 母上十六〇一 詩卅一〇十 三二七〇十二、卅二九四 〇廿一 太二七〇一 可十四〇一 約十一〇五一 徒廿三〇十二
カ 羅一〇十一、十六、六〇十七、二七〇四
ヨ 創四二〇廿二
タ 逆卅〇廿 歴六〇六
レ 創卅七〇二八、三六
ソ 耶八〇廿二
ツ 創四六〇十八 卅七〇廿 伯十
子 創四二〇廿一
ナ 創二九〇十四
ラ 母上十八〇十七 士九〇三
ム 創四五〇四、五 詩百〇五
ウ 〇十七 徒七〇九
ヰ 太二七〇九

さへゆきぬ　二十九 茲ハルベンかへりて阱ハいたり見しハヨセフ阱ハをらざりしかばろの衣を裂き　三十 兄弟の許ハかへりて言ふ童子ハをらず嗚呼我何處ハゆくべきや　三十一 斯てかれらヨセフの衣をとり牡山羊の羔をころしてろの衣を血ハ濡し　三十二 ろの綵る衣を父ハおくり遣していひけるハ我等これを得たりなんぢの子の衣なるや否を知れと　三十三 父これを知りていふわが子の衣なり惡き獸彼をくらへりヨセフハかならずさかれしならんと　三十四 ヤコブろの衣を裂き麻布を腰ハまとひ久くろの子のためハなげ〻り　三十五 ろの子女みな起てかれを慰むれどもろの慰藉をうけずして我ハ哀きつ〻陰府ハくだりて我子のもとハゆかんといふ斯ろの父かれのためハ哭ぬ　三十六 偖ミデアン人ハエジプトハてパロの侍衛の長ポテパルハヨセフを賣り

第三十八章

一 當時ユダ兄弟をとなれて下りアドラム人名ハヒラといふ者の近邊ハ天幕をはりしが　二 ユダかしこハてカナン人名ハシユアといふ者の女子を見これを娶りてろの所ハいる　三 彼むらみて男子を生みければユダろの名をエルとなづく　四 彼ふたゝび孕みて男子を生みろの名をオナンとおづけ　五 またかさねて孕みて男子を生みてろの名をシラとおづく此子をうみける時ユダハクジブハありき　六 ユダろの長子エルのためハ妻をむかふろの名をタマルといふ　七 ユダの長子エルエホバの前ハ惡をなしたれむエホバこれを死しめたまふ　八 茲ハユダオナンハいひけるハ汝の兄の妻の所ハいりて之をめとり汝の兄をして子をえせしめよ　九 オナンろの子の已のものとならざるを知たれむ兄の妻の所ハいりし時兄に子をえせしめざらんためハ地ハ洩したり　十 斯おせし事エホバの目ハ惡かりければエホバ彼をも死しめたまふ　十一 ユダろの媳タマルハいひけるハ嫠婦となりて汝の父の家ハをりわが子シラの人となるを待てと恐らくハシラも亦ろの兄弟のごとく死るおそれんとおもひたれむをりタマルすなはち往てろの父の家ハをる　十二 日かさなり

ノ 伯一〇廿
オ 創四二〇十三、三六 耶卅一〇十五
ク 創卅七〇廿三
ヤ 創卅七〇廿、四四〇二八
マ 創卅七〇廿九 母下三〇卅一
ケ 母下十二〇十七
フ 創四二〇三八、四四〇二九 卅一
コ 創卅九〇一
エ 帖一〇十
イ 創十九〇三 五下四〇八
ロ 代上二〇三
ハ 創卅四〇二
ニ 創四六〇十二 民二六〇十九
ホ 創四六〇十二 民二六〇廿
ヘ 創四六〇十二 民二六〇廿
ト 創廿一〇廿一
チ 創四六〇十二 民二六〇十九
リ 代上二〇三
ヌ 申二五〇五 太廿二〇廿四
ル 申二五〇六
ヲ 創四六〇十二 民二六〇十九
ワ 得一〇十三
カ 利廿二〇十三

て後シユアの女ユダの妻死たりユダ慰をいれてゥの友アドラム人ヒラとゝもゐテムナゐのぼりゥの羊毛
を剪る者の所ゐいたる　十三　茲ゐタマルゐつげて視よゐんぢの舅ゥの羊の毛を剪んとてテムナゐのぼると
いふ者ゐりしかゐ　十四　彼ゥの嫠の服を脱すて被衣をもて身をゐほひつゝみテムナの途の側ゐゐるエナイム
の入口ゐ坐す其ゥシラ人となりたれども己れが妻ゐせられざるを見たれゐゐり　十五　彼ゥの面を蔽ひゐた
りしかゐユダこれを見て娼妓ならんとゐもひ　十六　途の側ゐて彼ゐ就き請ふ來りて我をして汝の所ゐいらゐ
めよといふ其ゥの子の妻なるをゐらざれゐなり彼ゥひけるゥ汝何を我ゐゐたへてわが所ゐいらんとす
るや　十七　ユダゥひけるゥ我群より山羊の羔をゐくらん彼ゥふ汝其をゐくるまで質をゐたへんか　十八　ユダ何の
質をなんぢに與ふべきやといふゐ彼汝の印と綬と汝の手の杖をといひけれゐ則ちこれを與へて彼の所ゐ
ゥりぬ彼ユダゐ由て妊めり　十九　彼起て去ゥりの被衣をぬぎすて嫠婦の服をまとふ　二十　かくてユダ婦の手より
質をとらんとてゥの友アドラム人の手ゐ托して山羊の羔をゐくりけるが彼婦を見ざれば　二十一　ゥの處の人ゐ
問て途の側なるエナイムの娼妓ゥ何處ゐをるやといふゐ此ゐゥ娼妓なしといひければ　二十二　ユダの許ゐかへ
りていふ我彼を見いださず亦ゥの處の人此ゐゥ娼妓ゐしといへりと　二十三　ユダゥひけるゥ彼ゐとらせゐけ恐
くゥわれら笑柄とならん我この山羊の羔をゐくりたるゐ汝かれを見ざるなりと　二十四　三月ばかりゐりて後ユ
ダゐ告る者ゐりていふ汝の媳タマル姦淫をなせり亦ゥの姦淫ゐよりて妊めりとユダゥひけるゥ彼を曳い
だして焚べし　二十五　彼ひきいだされし時ゥの舅ゐゥひつかをしけるゥ是をもてる人ゐよりて我ゥ妊りと彼す
なをゥら請ふこの印と綬と杖ゥ誰の所屬なるかを辨別へといふ　二十六　ユダこれを見識ていひけるゥ彼ゥ我より
も正しわれ彼をゐゞ子シラゐあたへざりしゐよりて再びこれを知らざりき　二十七　かくて產の時ゐゥた

ヨ 母下十三〇三九
タ 書十五〇十五七　十四〇一
レ 箴七〇十二
ソ 創十一〇廿六
ツ 結十六〇廿三
子 創廿八〇廿
ナ 創廿八〇二五
ラ 創廿八〇十四
ム 士十九〇二
ウ 利廿一〇九　申廿二〇廿一
ヰ 創廿八〇十八
ノ 創廿七〇廿二
オ 創廿七〇廿三
ク 母上一四〇十七
ヤ 創廿八〇十四
マ 伯廿四〇廿一　廿二

りて見るゐゥの胎ゐ攣あり　二十八　ゥの產時手出しかば產婆是首ゐいづといひて絳き線をとりてゥの手ゐゐ
なりしゐ　二十九　手を引こむるゐゐたりて兄弟いでたをゞ汝なんぞ坼いづるやゥの坼汝ゐ歸せんといへり故
ゐゥの名いペレツ（坼）と稱る　三十　ゥの兄弟手ゐ絳線のゐる者後ゐいづゥの名いゼラとよばる

第三十九章

一　ヨセフ挈へられてエジプトゐくだりしがエジプト人ポテパルパロの臣侍衛の長なる者
彼を其處ゐたづさへくだれるイシマエル人の手よりこれを買ふ　二　エホバヨセフとゝもゐ在す彼亨通者と
なりてゥの主人なるエジプト人の家ゐをる　三　ゥの主人エホバの彼とゝもゐいますを見またエホバゐかをし
の手の凡てなすところを亨通しめたまふを見たり　四　是ゐよりてヨセフかれの心ゐかゐひて其近侍となる
彼ヨセフゐゥの家を宰どらしめゥの所有を尽くゥの手ゐ委たり　五　彼ヨセフゐゥの家とゥの有る凡の物を
つかさどらせし時よりしてエホバヨセフのためゐ其エジプト人の家を視みたまふ卽ちエホバの祝福かれ
が家と田ゐ有る凡の物ゐおよぶ　六　彼ゥの有る物をことゞくヨセフの手ゐゆだねゥの食ふパンの外ゥ何
をもかへりみざりき夫ヨセフゥ容貌麗しくして顏美しかりき　七　これらの事の後ゥの主人の妻ヨセフゐ目
をつけて我と寢よといふ　八　ヨセフ拒みて主人の妻ゐいひけるを視よゐゞ主人家の中の物をかへりみずゥ
の有るものことゞくわゞ手ゐ委ぬ　九　この家ゐゥ我より大なるものなし又主人何をも我ゐ禁ぜず只汝を
除くのみ汝ゥの妻なをゞなり然ゞ我いかで此ゐほいなる惡をおして神ゐ罪ををかすをえんや　十　彼日々
ゐヨセフゐ言よりたれどもヨセフきかずして之といねず亦與ゐをらざりき　十一　當時ヨセフゥの職をおさん
とて家ゐいりしが家の人一箇もゥの內ゐをらざりき　十二　時ゐ彼婦ゥの衣を執て我といねよといひけれゞヨ
セフ衣を彼の手ゐ棄おきて外に逃いでたり　十三　彼ヨセフがゥの衣を己の手ゐ棄おきて逃いでしを見て　十四　ゥ

ケ 創四六〇十二　民二六〇廿代上二〇四　太一〇三
イ 創廿七〇廿六　詩四〇五〇十七
ロ 創廿七〇廿八
ハ 廿九〇廿一　廿一〇廿二、廿六〇廿一　廿八、廿四　廿八、廿八〇十五　母上十六〇十八、十八〇十四　二八　徒七〇九
ニ 詩一〇三
ホ 創十八〇三、十九〇十九、廿九〇廿一
ヘ 創廿四〇二
ト 創廿〇二七
チ 母上十六〇十二
リ 母下十三〇十一
ヌ 箴六〇二九、廿二
ル 創廿〇六　列六〇二　母下十二〇十三　詩五一〇四
ヲ 箴七〇十三

ソ 出廿三〇一　詩百廿〇三

カ 箴六〇卅四、卅五
ヨ 創四十〇三、十五、四十一〇十四
ダ 詩百〇五〇十八　箴前二〇十九
レ 出三〇廿一、十一〇三、十二〇卅六、詩百〇六〇四六箴十六〇七、但一〇九、徒七〇九、十
ソ 創四十〇三四
ツ 創卅九〇二、三

の家の人々を呼てこれゐいふ視よヘブル人を我儕の所ゐつれ來て我儕ゐたもむれしむ彼我といねんとて我の所ゐいり來しかゞ我大聲ゐよむゝれり　彼わゞ聲をあげて呼はるを聞しかゞろの衣をわゞ許にすてゐきて外ゐ遁いでたりと　其衣を傍に置て主人の家ゐ歸るを待つ　かくて彼是言のごとく主人ゐつげていふ汝ゞの我らゐ携へきたりしヘブルの僕われゐたもむれとて我許ゐいりきたりしゞ　我聲をあげてよむゝりしかゞろの衣を我許ゐすておきて遁いでたり　主人ろの妻ゞ已ゐつげて汝の僕斯のごとく我ゐなせりといふ言を聞て怒を發せり　是ゐ於てヨセフの主人彼を執へて獄ゐいる其獄い王の囚徒を繫ぐ所なりヨセフ彼處ゐて獄ゐをりしが　エホバヨセフとゝもゐ在して之ゐ仁慈を加へ典獄の恩顧をこれゐえさせたまひければ　典獄獄ゐある囚人をことゞくヨセフの手ゐ付せたり其處ゐおす所の事い皆ヨセフこれをなすなり　典獄ろのまのせたる所の事い何をものへりみざりき其いエホバヨセフとゝもゐいませゞなりエホバかれのなすところをさかえたまふ

第四十一章

一 これらの事の後エジプト王の酒人と膳夫ろの主エジプト王ゐ罪ををかす　二 パロろの二人の臣すなはち酒人の長と膳夫の長を怒りて　三 之を侍衛の長の家の中なる獄ゐ幽囚ふヨセフが繫れをる所ゐ　四 侍衛の長ヨセフをして彼等の側ゐ侍ましめたれゞヨセフ之ゐつかふ彼等幽囚れて日を經たり　五 茲ゐ獄ゐ繫れたるエジプト王の酒人と膳夫の二人ともゐ一夜の中ゐ各夢を見たりろの夢いおの〳〵ろの解明ゐかなふ　六 ヨセフ朝ゐ及びて彼等の所ゐ入て視るゐ彼等物憂に見ゆ　七 是ゐ於てヨセフろの主人の家ゐ已とともゐ幽囚をるパロの臣ゐ問て汝等なゐゆゑゐ今日い顏色ゐしきやといふゐ　八 彼等てれゐいふ我儕夢を見たれゞ之を解く者なしとヨセフ彼等ゐいひけるい解く事い神ゐよるゐゐらずや請ふ我ゐ述よ　九 酒人

イ 尼一〇十一
ロ 箴十六〇十四
ハ 創卅九〇廿、廿三

甲 尼一〇二
ニ 創四一〇十六　但二〇十一、二八、四七
ホ 創四一〇十五

の長ろの夢をヨセフゐ述て之ゐいふ我夢の中ゐ見しゐわゞ前ゐ一の葡萄樹あり　十 ろの樹ゐ三の枝あり芽いで花ひらきて葡萄ゐり球をなして熟たるがごとくなりき　十一 時ゐパロの盞わゞ手ゐあり我葡萄を摘てこれをパロの盞ゐ搾りろの盞をパロの手ゐ奉たり　十二 ヨセフかれゐいひけるいろの解明い是のごとし三の枝い三日なり　十三 今より三日の中ゐパロなんぢの首を擧げ汝を故の所ゐかへさん汝い曩ゐ酒人たりし時ゐなせし如くパロの盞をろの手ゐ奉ぐるゐいたらん　十四 然ゞ請ふ汝善ならん時ゐ我をおもひて我ゐ恩惠をほどこし吾事をパロゐのべてこの家よりわれを出せ　十五 我いまとゐヘブル人の地より掠れ來しものなれゞなりまた此ゐても我い牢ゐいれらるゝがごとき事いなさゞりしなり　十六 茲ゐ膳夫の長ろの解明の善りしを見てヨセフゐいふ我も夢を得て見たるゐ白きパン三筐わゞ首ゐありて　十七 ろの上の筐ゐい膳夫ゞパロのためゐ作りたる各種の饌ありしゞ鳥わゞ首の筐の中より之をくちへり　十八 ヨセフてたへていひけるいろの解明いうくのおとし三の筐い三日ゐり　十九 今より三日の中ゐパロ汝の首を擧むなして汝を木ゐ懸ん玄かして鳥汝の肉をくらひとるべしと　二十 第三日いパロの誕辰なれゞパロろの諸の臣僕ゐ筵席をなし酒人の長と膳夫の長をして首をろの臣僕の中ゐ擧しむ　二十一 卽ちパロ酒人の長をろの職ゐかへしければ彼盞をパロの手ゐ奉たり　二十二 されゞ膳夫の長い木ゐ懸らるヨセフの彼等ゐ解明せるごとし　二十三 然るゐ酒人の長ヨセフをおぼえずして之を忘れたり

第四十二章

一 二年の後パロ夢ることゐり卽ち河の濱ゐたちて　二 視るゐ七の美しき肥たる牝牛河よりのぼりて葦を食ふ　三 ろの後また七の醜き瘦たる牛河よりのぼり河の畔ゐて彼牛の側ゐたちしが　四 ろの醜き瘦たる牛かの美き肥たる七の牛を食ひつくせりパロ是ゐいたりて寤む　五 彼また寐て再び夢るゐ一の莖

ヘ 創四十〇十八、四十一〇十二〇三五、十七〇十四　但二〇三六、四〇十九
チ 王下二九〇二七　詩三〇三　耶五二〇卅一
ト 創四一〇二六
リ 路廿三〇二　毎上廿〇十四
ヌ 詩二〇十二　毎下九〇一　王上十五　二〇七
ル 創三九〇廿
ヲ 創四十〇十二
ワ 創四十〇十三
カ 太十四〇六
ヨ 可六〇廿一
タ 創四十〇十三、十九　太二五〇十九
レ 創四十〇十三
ソ 尼二〇一
ツ 創四十〇十九
子 伯十九〇十四　詩卅一〇十二、箴九〇十五、十六　箴六〇六

イ 伊二〇一、四〇五、十九
ロ 出七〇十、廿二、廿二、九
〇十四 伊一〇廿、二〇二、
四〇七
ハ 十二〇一
ニ 創四十〇二、三
ホ 創三九〇廿
ヘ 創四十〇五
ト 創廿七〇廿六
チ 創四十〇十二
リ 創四十〇廿二
ヌ 詩百〇五〇廿
ル 詩二〇廿五
チ 哥上二〇八 詩百十三〇七
八
ワ 創四一〇十二 詩二五〇十
四、伊五〇十六
カ 伊二〇卅 徒三〇十二 哥
後三〇五
ヨ 創四十〇八 伊二〇廿二、廿
八、四七、四〇二
タ 創四一〇一
レ 創四一〇八 伊四〇七
ソ 伊二〇二八、二九、四五、
哥四〇一

わ七の肥たる佳き穂いできたる　其のちわ又玄おびて東風わ焼たる七の穂いできたりしが　七の七の玄なびたる穂かの七の肥實りたる穂を呑盡せり　パロ寤て見わ夢なりき　八　パロ朝わおよびてうの心安からず人をつかわしてエジプトの法術士とうの博士を皆てとくく召し之わうの夢を述たり然と之をパロわ解うる者なのりき　九　時わ酒人の長パロわ告ていふ我今日わが過をおもひいづ　十　嘗てパロうの僕を怒て我と膳夫の長を侍衛の長の家わ幽囚へたまひし時　十一　我と彼ともわ一夜のうちわ夢み各うの解明わかゝふ夢をみたりしゞ　十二　彼處わ侍衛の長の僕なる若きヘブル人我らと偕わあり我等これわのべたれゞ彼われらの夢を解うの夢わ玄たがひて各人わ解明をなせり　十三　玄うして其事かれゞ解たるごとくなりて我いわが職わへり彼い木わ懸らる　十四　是わ於てパロ人をやりてヨセフを召しければ急ぎてこれを獄より出せりヨセフすなむち鬚を薙り衣をかへてパロの許わいり來る　十五　パロヨセフわいひけるい我夢をみたれゞ之をとく者なし聞わ汝い夢をきゝて之を解くことをうると云ふ　十六　ヨセフパロわこたへていひけるい我わよるわらず神パロの平安を告たまへん　十七　パロヨセフわいふ我夢わ河の岸わたちて見るわ　十八　河より七の肥たる美しき牡牛のぼりて葦を食ふ　十九　後また弱く甚だ醜き瘠たる七の牝牛のぼりきたる其惡き事エジプト全國わわゞ未だ見ざるほどなり　二十　うの瘠たる醜き牛初の七の肥たる牛を食ひつくしたりしゞ　二十一　已わ腹わいりても其腹わいりし事玄れず尚前のごとく醜うりき我是わいたりて寤めたり　二十二　我また夢わ見るわ七の實たる佳き穂一の莖わいできたる　二十三　うの後わまたいぢけ萎びて東風わやけたる七れ穂生じたりしが　二十四　うの玄なびたる穂かの七の佳穂を呑つくせり我これを法術士わ告たれどもわれわれを玄めすものなし　二十五　ヨセフパロわいひけるパロの夢い一なり神うの爲んとする所をパロわ示したまへるなり　二十六　七の美牝牛い七年七の

佳穂も七年わして夢い一なり　二十七　其後わのぼりし七の瘠たる醜き牛い七年わしてうの東風わやけたる七の空穂い七年の饑饉なり　二十八　是いわがパロわ申したてろなり神うのなさんとするところをパロわ玄めしたまふ　二十九　エジプトの全地わ七年の大なる豐年わるべし　三十　うの後わ七年の凶年おこらん而してエジプトの地わありし豐作を皆忘るわいたるべし饑饉國を滅さん　三十一　後わいたるうの饑饉玄おはだはげしきわより前の豐作國の中わ知れざるわいたらん　三十二　パロのふたゝび夢をかさねし見たまひしい神ゞこの事をさだめて速わ之をなさんと玄たまふなり　三十三　されパロ慧く賢き人をえらみて之わエジプトの國を治め玄めたまふべし　三十四　パロこれをなし國中わ官吏を置てうの七年の豐年の中わエジプトの國の五分の一を取たまふべし　三十五　而して其官吏を玄て來らんとするうの善き年の諸の糧食を斂めてうの穀物をパロの手わ蓄へ玄め糧食を邑邑わかこい玄めたまふべし　三十六　うの糧食を國のため わ蓄藏へおきてエジプトの國わのゞむ七年の饑饉わ備へ國をして饑饉のためわ滅さらしむべし　三十七　パロとうの諸の臣僕此事を善とす　三十八　是わ於てパロうの臣僕わいふ我儕神の靈のやどれる是のごとき人を看いだすをえんやと　三十九　玄かしてパロヨセフわいひけるい神是を盡く汝わ玄めしたまひたれゞ汝のごとく慧く賢き者なうるべし　四十　汝わが家を宰るべしわゞ民みな汝の口わ玄たがいん唯位わおいてのみ我い汝より大なるべし　四十一　パロヨセフわいひけるい視よ我汝をエジプト全國の家宰とおすと　四十二　パロすなむち指環をうの手より脱して之をヨセフの手わはめ之わ白布を衣せ金の索をうの項わかけ　四十三　之をして已のもてる次の輅わ乘玄め下わゐよと其前わ呼玄む是彼をエジプト全國の家宰となせり　四十四　パロヨセフわいひけるい我いパロなりエジプト全國わ汝れ允准をえずして手足をわぐる者なかるべしと　四十五　パロヨセフの名をザフナテパネアと名けまたオンの祭司ポテパルの女アセナテを之わ

ツ 王下八〇一
テ 創四十〇三五
ナ 創四一〇四七
ラ 創四一〇九四
ム 創四七〇十三
ウ 民廿三〇十九、哥四十六〇十
十一
非 詩六〇六、七、八
ノ 創四一〇四八
オ 創四七〇十五、十九
ク 詩百〇五〇十九、徒七〇十
ヤ 民二七〇十八、伯廿二〇八
哥二〇六、伊四〇八十八、
五〇十一十四、六〇三
マ 詩百〇五〇廿一、廿二 徒
七〇十
ケ 伊六〇三
フ 帖三〇十八〇二、八
コ 帖八〇十五
エ 伊五〇七、二九
テ 帖六〇九
ア 創四二〇六、四五〇八、二
六、徒七〇十
サ 出二〇十六
八、廿七〇二六 母下八〇十

キ 母上十六〇廿一、五上十二〇六、八　但二〇十九
ユ 母廿七〇十七　士七〇十二　母上十三〇五　詩七八〇二七
メ 創四六〇廿、四八〇五、
ミ 創四九〇廿二
シ 創四一〇冊　エ 詩百〇五〇十六　徒七〇十一
ヒ 創四二〇六、四七〇十四、二四　モ 申九〇二八
イ 徒七〇十二
ロ 創四三〇八　詩百十八〇十七　ハ 創四二〇三八

あたへて妻となさしむヨセフいでゝエジプトの地をめぐる　四六ヨセフはエジプトの王パロのまへに立し時三十歳なりきヨセフパロのまへを出て遍くエジプトの地を巡れり　四七七年は豊年の中に地山あして物を生ず　四八ヨセフすなはちエジプトの地にありしろの七年の糧食を斂てろの糧食を邑々に藏む即ち邑の周圍の田圃の糧食を其邑の中に藏む　四九ヨセフ海隅の沙のごとく甚だ多く穀物を儲へ遂に數ふることをやむるに至る其も數かぞり無れば なり　五十饑饉の歳のいたらざる前にヨセフに二人の子うまる是はオンの祭司ポテパルれ女アセナテの生たる者なり　五一ヨセフろの冢子れ名をマナセ(忘)となづけて言ふ神我をしてわが諸の苦難とわが父の家の凡の事をわすれあめたまふと　五二又次の子の名をエフライム(多く生る)となづけていふ神われをしてわが艱難の地に多くの子をえせしめたまふと　五三爰にエジプトの國の七年の豊年をへり　五四ヨセフの言しごとく七年の凶年きたりはじむろの饑饉は諸の國にあり然どエジプト全國には食物あり　五五エジプト全國饑し時民さけびてパロに食物を乞ふパロエジプトの諸の人にいひけるはヨセフに往け彼ら汝等にいふところをなせと　五六饑饉全地の面にありヨセフすなはち諸の倉廩をひらきてエジプト人に賣わたせり饑饉はすゝエジプトの國にはげしくなる　五七諸の國にはげしくなりしかゝる諸國の人エジプトにきたりヨセフにいたりて穀物を買ふ

第四十二章

一ヤコブはエジプトに穀物あるを見しかゝるの子等にいひけるは汝等なんぞたがひに面を見あはするや　二ヤコブまたいふ我はエジプトに穀物ありと聞り彼處にくだりて彼處より我等のために買きたれ然らばわれの生るを得て死をまぬかれんと　三ヨセフの十人の兄弟はエジプトにて穀物をかはんとて下りゆけり　四されどヨセフの弟ベニヤミンはヤコブこれをろの兄弟とともに遣さゞりきおろらくは災難かれの身にのぞむことをあらんと思たれゝなり　五イスラエルの子等穀物を買んとて來る者とゝもに來る其はカナンの地に饑饉ありたれゝなり　六時にヨセフは國の總督にして國の凡の人に賣ことをなせりヨセフの兄弟等來りてろの前に地に伏て拜す　七ヨセフろの兄弟を見てこれを知たれども知ざる者のごとくして荒荒しく之にものいふ即ち彼等に汝等は何處より來れるやといへば彼等いふ糧食を買んためにカナンの地より來れりと　八ヨセフはろの兄弟を知りたれども彼等はヨセフを知らざりき　九ヨセフろの昔に彼等の事を夢たる夢を憶いだし彼等にいひけるは汝等は間者にして此國の際を窺んとて來れるなり　十彼等之にいひけるはわゞ主よ然らず唯糧食をかはんとて僕等は來れるなり　十一我儕はみな一箇の人の子にして篤實なる者なり僕等は間者にあらず　十二ヨセフ彼等にいひけるは否汝等は此地の際を窺んとて來れるなり　十三彼等いひけるは僕等は十二人の兄弟にして カナンの地の一箇の人の子なり季子は今日父とともにある又一人はをらずなりぬ　十四ヨセフかれらにいひけるはわゞ汝等につげて汝等は間者なりといひしはこの事なり　十五汝等斯してろの眞實をあかすべしパロの生命をさして誓ふ汝等の末弟こゝに來るにあらざれば汝等は此をいづるを えじ　十六汝等の一人をやりて汝等の弟をつれきたらしめよ汝等をば繫ぎおきて汝等の言をためし汝らの中に眞實あるや否をみんパロの生命をさして誓ふ汝等はかならず間者なりと　十七彼等を皆ともに三日のあひだ幽囚おかり　十八三日におよびてヨセフかれらにいひけるは我神を畏る汝等是なして生命を之よ　十九汝等もし篤實なる者ならば汝らの兄弟の一人をしてこの獄に繫れしめ汝等は穀物をたづさへゆきておんぢらの家々の饑をすくへ　二十但し汝等の末弟を我につれきたるべしさすればなんぢらの言の眞實あらはれて汝等死をまぬかるべし彼等すなはち斯おせり　二一茲に彼らたがひに言けるは我儕は弟の事に

ニ 徒七〇十一　ホ 創四一〇四一
ヘ 創三七〇七
ト 創三七〇五、九
チ 創三七〇冊　出五〇七　創四四〇廿
ル 創四二〇三四、四三〇五、四四〇廿三
ヌ 利二五〇四三　尼五〇十五
リ 母上一〇二六、十七〇五五